デーリー東北新聞社提供

デーリー東北
2023年（令和5年）5月14日（日曜日）（1）

チャットGPT どう向き合う

八戸工大 島内准教授に聞く

求められる「吟味する目」

利用前提の対応不可欠

何かと話題のチャットGPT。インターネットのサイトなどで質問を投げかけると、自然な文章で答えが返ってくる対話型人工知能（AI）だ。当然、本紙のことも知っているだろうと尋ねると、「申し訳ありませんが、デーリー東北という新聞社は存在しません」。少し質問を変えると、宮城県に本社を置く新聞社という答えが…。どちらも誤りだが、自信たっぷりに回答してくる。自然な文章や画像を生成するAIと、われわれはどのように向き合っていくべきなのか。八戸工業大工学部の島内宏和准教授（38）に聞いた。（松浦大輔）

チャットGPTとの向き合い方について語る島内宏和准教授＝5月上旬、八戸工業大

チャットGPTは、ネット上で収集した膨大な情報を基に、会話形式で利用者の質問に答える。例えば「八戸市内でお薦めの居酒屋は」と尋ねると、すぐに教えてくれる。冒頭のように間違いも多いが、設定でウエブ検索を可能にしたり、有料版へ切り替えたりすれば、精度が格段に高まる。俳句や短歌も瞬時に詠み、「デーリー東北の歌を作って」とお願いすると、「地域を照らす情報の灯」「風雪にもまれ八十年」などもっともらしく作詞してくれる。

こうした生成AIには、文章だけでなく画像や音声を作り出すものもある。近年、専門知識がなくても使えるものが出てきたため、急速に利用が伸びている。

一方で多くの課題が浮き彫りとなってきた。島内准教授は「不正確な場合があるほか、誰かが言った情報をそのまま取り入れているかもしれないので、発表などで使うと盗用になる危険性もある」と指摘。また、子どものうちから使うと、文章を書く能力が育たない可能性もある。やりとりを学習する特徴から、個人情報を入力すると期せずして拡散する懸念もあるという。

それでも、使い方によっては作業を効率化できるメリットがある。文章やプログラミングの校正、法令・判例など膨大な文章の要約や翻訳、企業や自治体の問い合わせへの回答、広告のキャッチコピーや画像のアイデアの提案など、幅広く利用する動きが出始めている。学内では、就職活動の志望動機作成のために活用した学生がいたという。

島内准教授は「将来的にはさらに精度が高まるとしても、吟味する目は必要。教育などで養っていかなくてはならない。授業で留意事項や倫理について教えることも考えている」と、あくまで人間主体で活用する重要性を説く。

学校現場でのガイドラインは文部科学省が検討中。同大もこれを踏まえて対応を決める方針で、「使うなと言っても止めるのは難しい。学生のリポートでは引用や参考元に加え、場合によってはAIを使ったこと自体も明記させ、評価方法も見直すなど、利用を前提にした対応をしていく必要があるだろう」と話した。

チャットGPTが作成したデーリー東北新聞社の社歌

デーリー東北　新聞社
地域を照らす　情報の灯
読者の声　聞き届ける
時代を切り拓く　新聞社

風雪にもまれ　八十年
信念を貫き　挑み続ける
誠実と信頼　大切にして
未来へと踏み出す　新聞社

デーリー東北　新聞社
私たちの毎日に　あなたがある
感謝の想い　胸に刻み
共に歩む　新聞社

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。